

<第65回調査>

2014年10月27日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2014年10月14日(火)13:00～2014年10月21日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。
今回の有効回答数は657件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

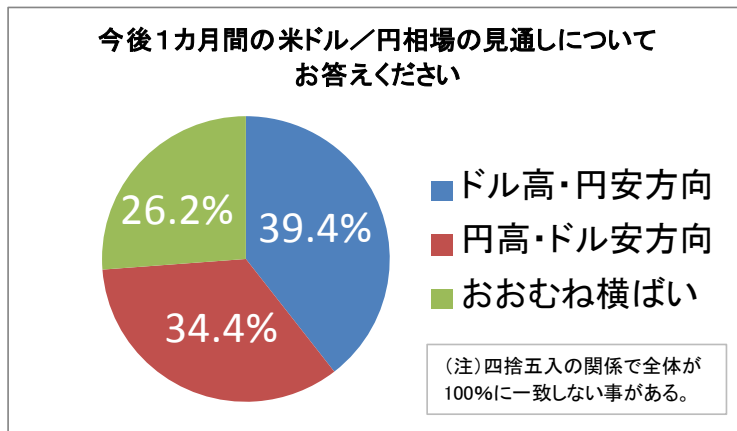
Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第65回調査結果略報：米ドル/円の見通しが交錯】

問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

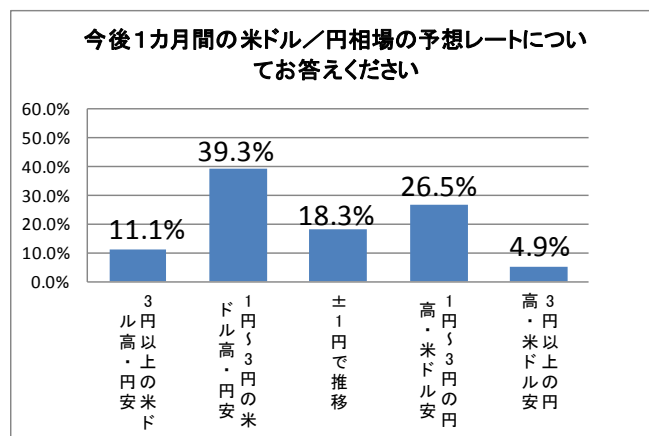
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が39.4%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は34.4%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+5.0%ポイントと、16カ月連続のプラス圏を維持した。ただ、プラス幅は前回(+47.2)から大幅に縮小しており、ドル強気・円弱気の見通しが急速に萎んだ様子が見て取れる。調査期間中の米ドル/円相場は、107円台半ばから一気に105円台前半まで下落した後、107円台に切り返すなど荒っぽい値動きとなった。こうした相場展開を目の当たりにして、個人投資家の見通しに強気と弱気が交錯したと見られる。

※過去の米ドル/円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」と答えた割合が39.3%と最も多く、「1円～3円の円高・ドル安」が26.5%と続いた。さらに「±1円で推移」が18.3%、「3円以上の米ドル高・円安」が11.1%、「3円以上の円高・米ドル安」が4.9%と続いた。ヒストグラムの形状はM字型に近く、上昇と下落で相場観が分かれた(おおむね横ばいが少なかった)問1の結果と整合的である。不安定な相場展開による不安定な投資家心理を反映したアンケート結果と言えるだろう。



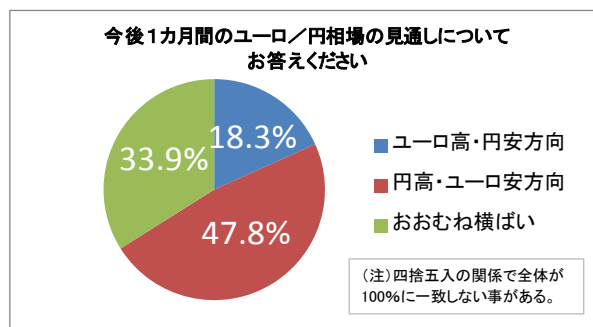
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が18.3%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が47.8%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は▲29.5%ポイントとなり、7カ月連続のマイナスを記録。前月にやや後退した弱気な見方(前々月の▲33.2%ポイントから▲5.2%ポイントにマイナス幅が縮小していた)が勢いを取り戻した格好だ。調査期間中のユーロ/円相場は、一時約11カ月ぶりの安値となる134.140円まで下落したが、その後反転して137円台を回復した。ただ、そうした切り返しの動きは、個人投資家の心理改善には繋がらなかった事になる。欧州景気の先行き不安や欧州中銀(ECB)による追加緩和への期待が根強いという事だろう。

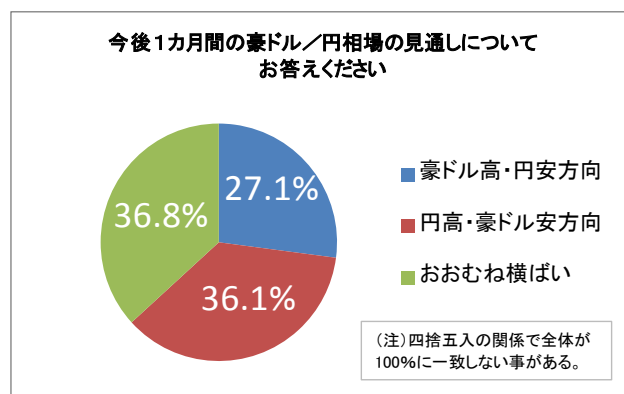
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が27.1%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は36.1%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は▲9.0%ポイントと3カ月ぶりのマイナスDIを記録して、円強気・豪ドル弱気の予想に転換した。調査期間中の豪ドル/円相場は、世界的な景気減速が懸念される中、一時7カ月ぶりの安値となる91.762円まで下落しており、こうした流れが個人投資家の見通しを悪化させたと思われる。もっとも、安値を付けた16日の日足は底入れのシグナルとされる長い下ヒゲを出しており、その後20日には94.20円台まで反発している。テクニカル分析面での底打ち感が、DIのマイナス幅をなんとか一桁に留めたと言えるかもしれない。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

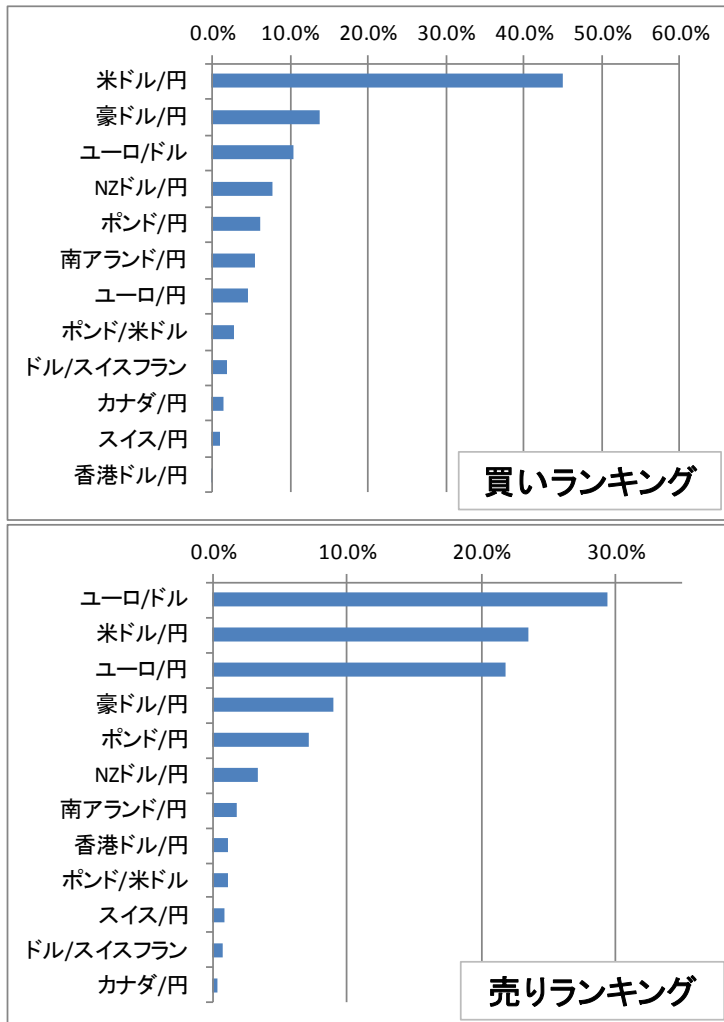


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(45.1%)、2位豪ドル/円(13.7%)、3位ユーロ/ドル(10.4%)、4位NZドル/円(7.8%)、となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ/ドル(29.4%)、2位米ドル/円(23.4%)、3位ユーロ/円(21.8%)、4位豪ドル/円(9.0%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円の1位と豪ドル/円の2位はいずれも24カ月連続と揺るがなかったが、特筆すべきはユーロ/ドルが前回の6位(4.6%)から3位に順位を上げた点であろう。ユーロ/円が7位に甘んじており、ユーロ/ドルは「売り」で注目の第1位である事を鑑みると、決してユーロ高を予想しているわけではないようだ。米ドル安を見込んでいても考えられなくはないが、そうすると米ドル/円が「買い」で注目の第1位である点と整合的ではない。思い当たるのはユーロ/ドルの「値ごろ感」であり、およそ2年ぶりの安値となった1.25004ドル(10/3)からの自立的な反発を予想しているのではないだろうか。

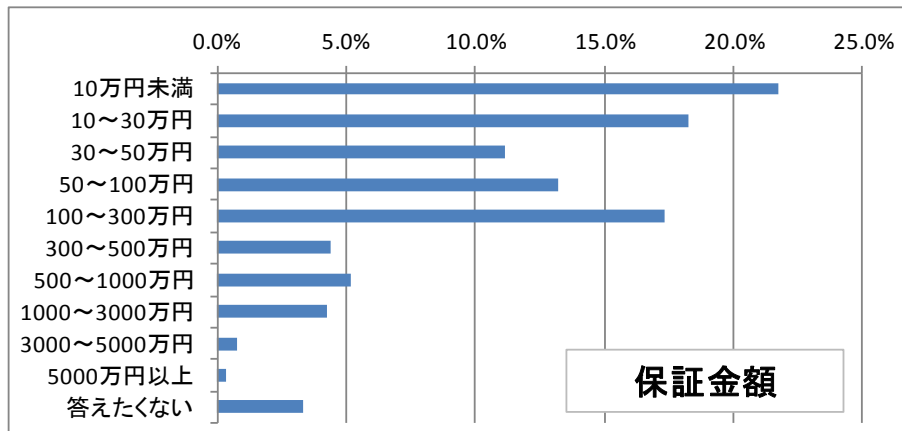


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

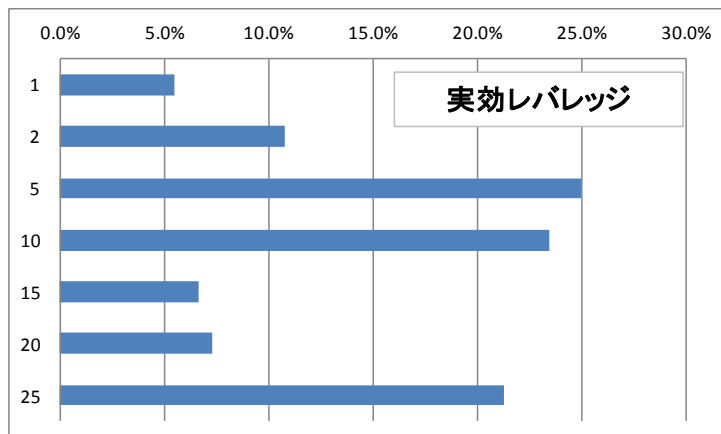
問6: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が21.8%と最も多く、以下「10～30万円(18.3%)」、「100～300万円(17.4%)」、「50～100万円(13.2%)」、「30～50万円(11.1%)」と続いた。順位や回答割合に大きな変化は見られず、ほぼ前回と同様の回答結果となった。100万円以下の保証金で取引を行うと答えた合算割合は64.4%で、前回(64.2%)との差は小さいが、1年前の第53回調査の59.2%に比べると割合が増加している。また、「300万円以上」とした合算割合も15.0%と前回(15.3%)とは差がないが、前年同月の18.4%からは低下している。



問7: 現在の[実効レバレッジ]で最も近いものを選択ください(ひとつだけ)

「現在の[実効レバレッジ]」について尋ねたところ、「5倍」と答えた割合が25.0%と最も多く、「10倍」が23.5%、「25倍」が21.3%と続き、以下、「20倍」が7.3%、「2倍」が10.8%となった。「5倍」が最多回答割合を集めたのは、質問形式を「実行レバレッジ」に改めた2013年11月の第54回調査以来初めての事だ。また、10倍以下の合算割合が64.8%と前回の59.6%から増加、今回の調査に回答を寄せた個人投資家の平均実効レバレッジも11.7倍と前回の12.7倍から低下している。荒れ模様の相場展開の中で、レバレッジを抑えて取引した個人投資家が増加したものと思われる。

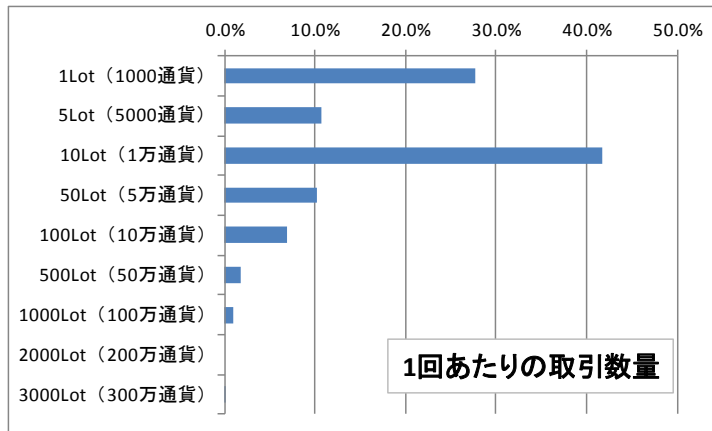


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承いたします。

Copyright©2014Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

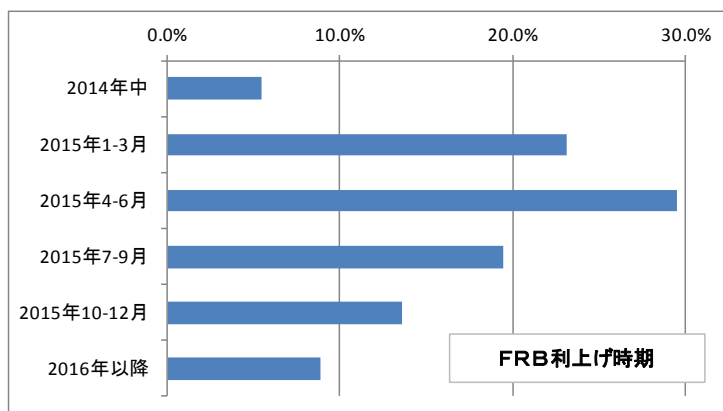
問8: 一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)

「一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「10Lot (1万通貨)」と答えた割合が41.7%と最も多く、以下「1Lot(1000通貨)」が27.7%、「5Lot(5000通貨)」が10.7%、「50Lot(5万通貨)」が10.2%、「100Lot(10万通貨)」が6.8%と続いた。順位は前回と同様だが、「100Lot(10万通貨)」以上と答えた合算割合が9.7%と、前回の11.1%から低下しており、問7の実効レバレッジと同じく、個人投資家らが取引量をやや抑えた様子が窺える。



問9: 米連邦準備制度理事会 (FRB) による、政策金利の引き上げの時期は？(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として「米連邦準備制度理事会 (FRB) による、政策金利の引き上げの時期は？(ひとつだけ)」と尋ねたところ「2015年4-6月」と答えた割合が29.5%と最も多く、以下「2015年1-3月期(23.1%)」、「2015年7-9月期(19.5%)」、「2015年10-12月期(13.5%)」、「2016年以降(8.8%)」、「2014年中(5.5%)」と続いた。2015年の中で開始時期の見方が別れた格好だが、個人投資家は本国の市場コンセンサスである「2015年7-9月期」よりも、やや早めの利上げ開始を見込んでいるようだ。個人投資家がドル強気(円弱気)予想を維持している背景には、早期利上げ期待があるのかもしれない。ただし、実際の利上げが予想より大きく後ずれする公算が大きくなれば、失望のドル売りが活発化する可能性を孕んでいるとも言える。米国の金融・経済情勢の点検を怠らないようにしたい。

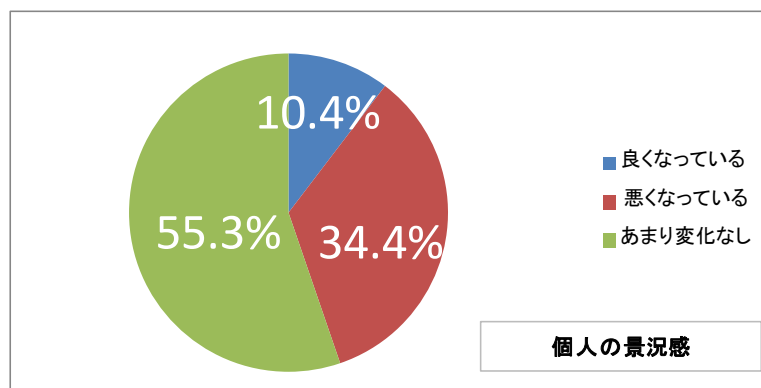


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問10: あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

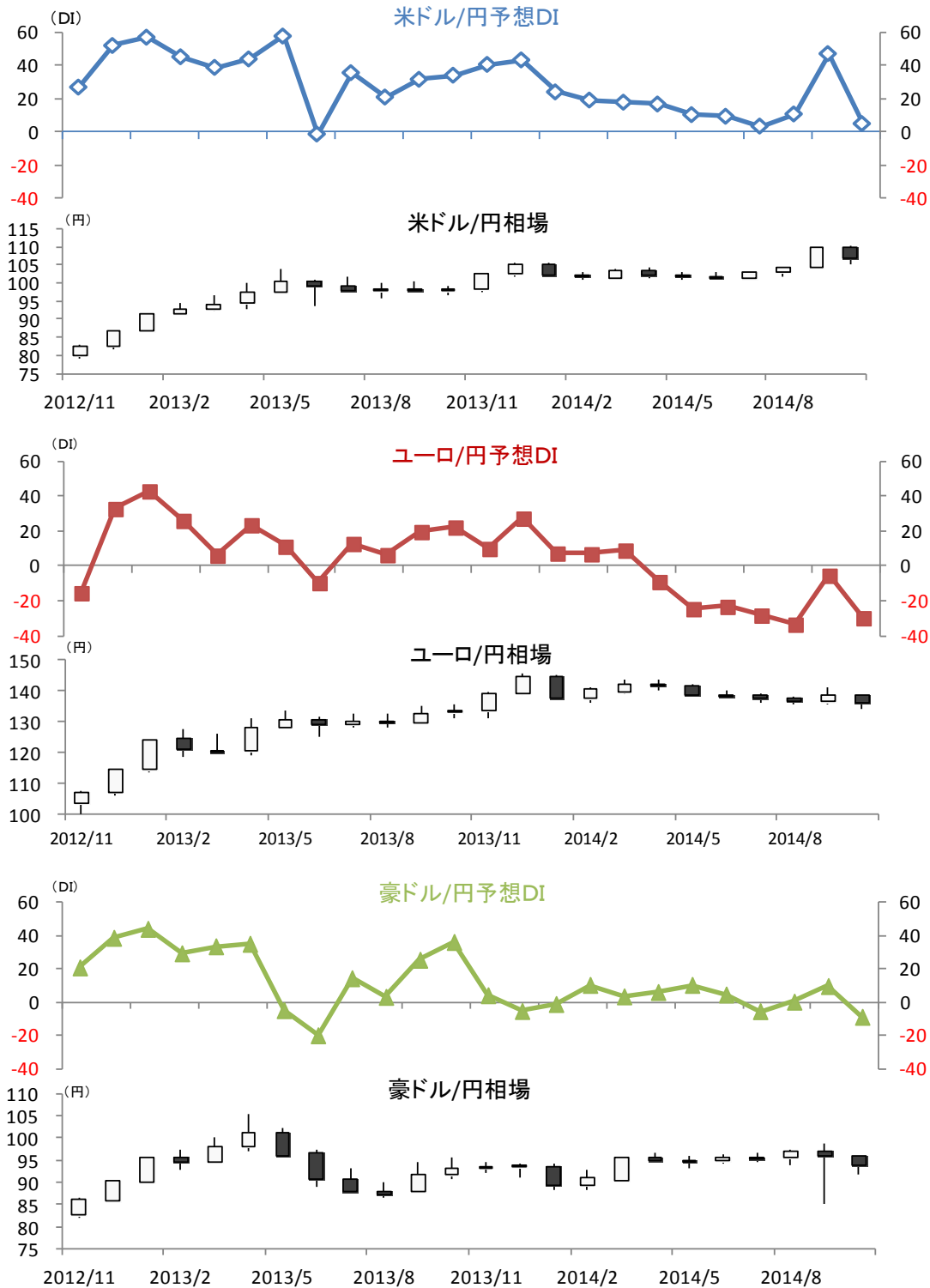
今月のもうひとつの特別質問項目として「あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「良くなっている」が10.4%、「悪くなっている」が34.4%、「あまり変化なし」が55.3%という結果であった。3カ月前の第62回調査で同じ質問をした際の回答割合は「良くなっている(22.4%)」、「悪くなっている(17.9%)」、「あまり変化なし(59.7%)」であり、この3カ月で景況感が悪化した事になる。3カ月前の米ドル/円相場は101円台での底這い期にあり、今回の105-107円よりも4円以上円高・米ドル安水準であった。足元で、円安(ドル高)デメリットを挙げる声(ガソリン価格や電気代の上昇など)が目立つ事と、景況感の悪化は無縁ではなさそうだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第65回目となりました。調査開始から5年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2012年	11月	48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7
	12月	69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5
2013年	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9
	2月	60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4	29.2
	3月	55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4
	4月	61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9
	5月	70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0
	6月	37.5	38.8	-1.3	31.4	40.8	-9.4	28.2	48.3	-20.1
	7月	52.3	16.6	35.7	37.3	24.3	13.0	38.4	24.2	14.2
	8月	43.7	22.7	21.0	34.1	27.5	6.6	34.8	31.8	3.0
	9月	49.8	18.1	31.7	40.8	21.0	19.8	46.5	21.2	25.3
	10月	54.8	20.6	34.2	40.8	18.4	22.4	53.1	17.1	36.0
	11月	53.2	12.5	40.7	34.8	24.7	10.1	31.8	27.8	4.0
	12月	59.5	16.1	43.4	48.2	20.7	27.5	27.3	32.8	-5.5
2014年	1月	47.2	23.1	24.1	37.2	29.7	7.5	28.1	29.4	-1.3
	2月	41.7	22.5	19.2	35.3	28.2	7.1	36.5	26.3	10.2
	3月	41.9	24.0	17.9	38.7	29.5	9.2	34.8	31.5	3.3
	4月	41.4	24.6	16.8	25.7	34.5	-8.8	35.4	29.5	5.9
	5月	33.9	23.5	10.4	19.7	44.0	-24.3	34.2	24.0	10.2
	6月	31.1	21.7	9.4	20.1	43.1	-23.0	30.4	26.0	4.4
	7月	27.9	24.4	3.5	17.8	45.8	-28.0	26.7	32.3	-5.6
	8月	32.6	21.8	10.8	14.7	47.9	-33.2	27.8	27.7	0.1
	9月	64.8	17.6	47.2	28.0	33.2	-5.2	36.0	26.5	9.5
	10月	39.4	34.4	5.0	18.3	47.8	-29.5	27.1	36.1	-9.0

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様が生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com